

受講番号 18083 学校名 池川中学校 氏名 森本 則子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 第2学年 生徒数 22 名
 科目名 第2学年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 NEW CROWN ENGLISH SERIES 2

クラスの様子・特徴

全体的に素直で明るく、授業を楽しもうという態度がみられる。特にゲームなどでは、男女関係なく一緒に楽しむことができる。学力差が非常に大きく、理解力に差があり、日本語でのていねいな説明を必要とする。

問題の確定

ゲーム形式では、楽しんで英語を使おうとしているが、英語の語順など、文を書くことに苦手意識を持っている生徒が少なくない。

予備調査

A 授業の観察

概ね、授業には積極的に取り組み、特にゲーム形式では楽しく活動できている。新出単語や本文のリーディング練習などではよく声が出ており、覚えようという意欲も見られる。特に文法事項が十分に定着できていない生徒への継続指導が必要である。

B 生徒による授業評価

レッスンごとには、基本的な内容はほぼ理解できていると思っているが、継続性が十分でない。又、「頑張ろう」「やらなければ」という気持ちは常に持っているが、実行に移すことが難しいと感じている。ゲームを多くして授業を楽しみたいと思っている。

C 学力データ

CRT結果においては、「聞くこと(91)」「話すこと(69)」「読むこと(80)」「書くこと(81)」となっている。中間・期末等の定期テストでは、男女間の得点差が大きい。全体的に、語順を含め、文法的な内容に関して苦手意識がある。

リサーチ・クエスチョン

書く力を伸ばすためには、指導法をどのように工夫すればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

毎時間の単語テストで、範囲を区切り、出題方法を工夫することにより、より多く覚えようという気持ちを持つのではないかと。

実践1

昨年度から授業の始めに行っている、新出単語5問テストで、覚える数を5問にしたり、新出単語が多い場合は1ページ分を2回に分けてテストを行った。家庭学習でノートに書いて覚えるようにさせた。2学期からは dictation の方法を取り、英単語と日本語の意味の両方を書かせるようにし、新出単語の定着を図った。

検証1

単語テストの平均点では、1学期・51.3、2学期・64.0と伸びてきている。生徒の中にも「単語も意味も覚えられて日本語から英語に直せるようになった」「1学期は単語だけだったので、○があまりなくて落ち込んだけど、今は少し○が増えたので落ち込まなくていい」と少しでも覚えようという気持ちを持つ生徒が増えてきている。特に女子は家庭学習で覚えることが定着している生徒が多くなってきている。

仮説2

教科書に出てくる基本本文を繰り返し読んだり書いたりして覚え、その文をテスト形式で書くことにより、基本本文の定着ができるのではないかと。

実践2

1学期は、単語テストの後、基本本文を掲示し、繰り返し読んで覚える時間を取った後、その1文を書かせた。2学期からは、授業の終わりに、次の基本本文を与えて、家庭学習でも利用できるようにし、基本本文は必ず書くこととした。又、書ける生徒は、単語を変えて、できるだけ多くの文を書かせるようにした。授業後、その文を教室に貼っていき、自分たちがどれだけの文を学習してきたのかわかるようにした。

検証2

定期テストでも覚えた基本本文を何らかの形で出題するようにしたので、テスト勉強にもなると感じた生徒が増えてきている。又、「文を書くことで、文の書き方やどんな時にどの単語を入れたらいいのかわかりやすくなった」「文の作り方や単語が覚えられ、と英文を書くことに対してあまり抵抗を持たなくなった生徒も増えている。しかし、その時だけ覚えて書けばいいと思っている生徒もあり、継続して定着させることが難しい。

仮説3

本文の音読練習を十分することにより、基本本文と単語の定着を高め、自分の身のまわりのことを表現できるようにするのではないかと。

実践3

本文の学習をした後は、音読の時間を確保し、CDの後について読んだり、ペアや班を使って繰り返し読む練習をした。音読を苦手としている生徒のために、カタカナを書いたプリントを用意し、音読の手助けとした。できるだけカタカナ読みにならないように配慮した。又、レッスン終了後には、レッスンを通して練習し、ペアや班で発表読みを行った。

検証3

1学期にはあまり音読練習の時間が取れていなかったため、2学期にはできるだけ音読の時間を確保してきた。「声を出して読むと、本文の意味もわかってくる」「もっとスラスラ読めるようになりたい」など、読むことを楽しむ生徒が増えてきた。音読することは、基本本文と単語の定着を高める良い方法であったと思う。一方、自己表現に関しては、十分な時間が取れておらず、実践できなかったため、3学期以降の課題としたい。

研究の成果

今までは、授業中に書いたり読んだりする時間の確保が十分ではないと思っていたので、今回、このような活動を取り入れることによって、授業の多くの場面で英語に触れる機会が増えてきたように思われる。また、文法事項や英語の語順なども理解できつつある生徒が増え、英文を書くことに対する苦手意識も若干薄らいできているようである。又、「声を出して読むと文が覚えられ、文の構成がわかる」「読めなかった単語もカタカナを見て読める」など、音読による効果も現れてきている。単語テストでは、1つでも多く覚えて点を取ろうという意欲の見られる生徒も増えてきている。

今後の授業改善の課題

生徒たちは書き取りや音読には意欲を持って取り組んでおり、継続を希望している。「基本本文の意味も書くようにしたらよい」といった意見も出ており、工夫して続けていきたい。又、十分に定着していない生徒に対する継続的な指導も必要である。さらに、自己表現活動にまではつなげられていないので、今後は、基本本文を定着させるためにも、それらの文型を用いた自由作文や自己表現をさせる時間を確保していくことが課題である。